

若手研究者が考える  
現場への貢献を目的とする研究  
～地方水試の研究・普及に求められること～

神奈川県水産技術センター相模湾試験場 高村正造

現場とは

漁業操業の場⇒漁師が生活の糧を得る場

県の水産技術職のすべき仕事は？

漁師がしっかりと収入を得られる操業を  
継続できるように(様々な角度から)サポートする

## 磯焼け対策⇒原因の調査，藻場復活への研究

### 漁師との話の中で取り組むことになった仕事

浜での雑談⇒藻場減少の相談⇒現状の調査⇒状況の説明と相談(勉強会)  
⇒藻場造成(漁師と協働)⇒効果調査⇒今後の対策の相談(勉強会)

2017年の開始当時は1漁協6人ほどだったが，現在は3漁協20人以上に活動範囲が広がっている

※中心は20代～40代の若手漁師，活動費はすべて漁協・部会の費用



漁業の現場へ貢献するために(心がけて実践していること)

① 漁業の内容を知る

⇒操業方法, 作業時間, 漁獲量の状況, 漁獲物の単価

② 知るためには**漁師と話をし, 自らも体験**する

⇒乗船し操業を見る, 市場での水揚げ・セリを見る,  
漁具の値段・維持のための労力を知る

③ ①, ②を**継続**し情報が頭に入ることによって, 地先漁業に対し  
何が必要か・求められているかが考察できる

※継続することで漁師からの情報量・相談量も多くなる